

第2学年英語科学習指導案

日時 平成17年12月5日(月)5校時
場所 陸前高田市立小友中学校
学級 2年A組 男10名 女14名 計24名
授業者 東 直志

1 単元名 Making a Video Letter (Sunshine English Course Book 2, Program 9)

2 単元について

(1) 教材観

本教材は交換留学生として日本を訪れるキャシーが由紀に送ったビデオレターに対し、由紀とすでに交換留学生として由紀の学校にいるジョーンズがビデオレターで返信するという内容である。また日本で生まれたソフトテニス選手をビデオレターでキャシーに紹介することで文化の違いに触れられる内容となっている。日頃ALTとの交流の中でも、自国のことをよく知らない自分たち日本人に気づかされることが多い。自己紹介に加えて、自国紹介できる糸口としたい。

新出文型としては、形容詞の比較の3用法、原級を用いた比較 比較級を用いた比較 最上級を用いた比較を扱う。人や物の特徴を詳しく説明したり識別したりする形容詞に、比較という機能を加えることで、表現の幅を広げさせたい。

(2) 生徒観

4月のNRT教研式学力検査を領域別で見ると、聞くこと10.7%、読むこと10.3%、話すこと10.2%、書くこと9.9%と、やはり書く領域において落ち込みが見られる。

全体的に授業に真面目に臨む生徒が多いが、自分を表現することにやや消極的な傾向が見受けられ、言語活動などの場面では、男女が意識して交流できないことも多々見られる。

(3) 指導観

平成16年度四県統一テストの結果、「書くこと」の領域が期待正答率を大きく下回った。特に3文以上の英文を書く問題が全問中最低の正答率であった。よって「書くこと」の領域に視点をあてることを確認し3文程度のまとまりのある英文を書かせることを目標とした。しかし3文程度のまとまりのある英文を書かせるためには、多くのまとまりのある英語を聞き取る経験の積み重ねが不可欠である。そこで本文や基本文の導入や授業の指示の場面ではできるだけ多くの英語のインプットを心がけたい。聞く、話す、読む、書くのバランスを考慮しながら、1単位時間の中での書く活動、単元レベルでの書く活動を継続的に積み重ねることにより、その力がアウトプットされるであろうと仮説した。

さらにこれまで教科書の進度との兼ね合いで書く活動が継続的に積み重ねられずにきてしまっている実態から授業改善のもう一つの視点として、各パートの1時間目に本文を導入し、基本文の用法理解まで、2時間目に本文の内容理解から基本文の運用まで、を1つのサイクルとし、より効率的で発展性のある指導の在り方を追求したいと考えている。

3 単元の目標

(1) [コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

形容詞の比較表現を用いた言語活動に積極的に取り組もうとしている。

(2) [表現の能力]

形容詞の比較表現を用いた言語活動の中で、自分の考えや伝えたいことを表現することができる。

(3) [理解の能力]

ビデオレターに関する教科書の本文の内容を正しく理解することができる。

(4) [言語や文化についての知識・理解]

形容詞の比較表現の運用における基本的な知識を身につけることができる。

4 指導計画(8時間)及び評価規準

第1時	・本文(キャシーからのビデオレター)の導入 ・形容詞の原級を用いた比較の用法の理解	... 1時間
第2時	・キャシーからのビデオレターの内容理解 ・形容詞の原級を用いた比較の運用	... 1時間
第3時	・本文(キャシーからのビデオレターについての対話文)の導入 ・形容詞の比較級を用いた比較の用法の理解	... 1時間(本時)
第4時	・キャシーからのビデオレターについての対話文の内容理解 ・形容詞の比較級を用いた比較の運用	... 1時間
第5時	・本文(キャシーに送るビデオレター)の導入 ・形容詞の最上級を用いた比較の用法の理解	... 1時間
第6時	・キャシーに送るビデオレターの内容理解 ・形容詞の最上級を用いた比較の運用	... 1時間
第7時	・単元のまとめ	... 1時間
第8時	・単元テスト	... 1時間

時	学習活動	評価規準			
		関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語・文化
1	パート1 本文の導入と形容詞の同等比較の用法理解		< W > 同等比較を用いて「～は～と同じくらい～だ」という英文を書くことができる。	< L > 本文の内容や同等比較の用法を大まかにつかむことができる。	
2	パート1 本文の内容理解と形容詞の同等比較の運用	< S > 同等比較を使った対話の中で、相手の考えをすすんで聞いたり、それに答えたりしようとする。	< S > 程度が同じくらいであることを伝えることができる。 < R > 内容が相手に伝わるように本文を正しく音読できる。	< R > 本文の内容を正しく読み取ることができる。	
3 本時	パート2 本文の導入と形容詞の比較級の用法理解		< W > 絵を見て形容詞の比較級の表現を含む3文以上の英文を書くことができる。	< L > 本文の内容や比較級の用法を大まかにつかむことができる。	
4	パート2 本文の内容理解と形容詞の比較級の運用	< S > 比較級を使った対話の中で、相手の考えをすすんで聞いたり、それに答えたりしようとする。	< S > 比較級を含んだ疑問文が使える、それに的確に答えられる。 < R > 対話の内容が表現されるように本文を正しく音読できる。	< R > 本文の内容を正しく読み取ることができる。	
5	パート3 本文の導入と形容詞の最上級の用法理解		< W > 最上級を用いて「～は～の(中)で一番～だ」という英文を書くことができる。	< L > 本文の内容や最上級の英文の用法を大まかにつかむことができる。	
6	パート3 本文の内容理解と形容詞の最上級の運用	< S > 最上級を使った対話の中で、相手の考えをすすんで聞いたり、それに答えたりしようとする。	< S > 最上級を含んだ疑問文が使える、それに的確に答えられる。 < R > 対話の内容が表現されるように本文を正しく音読できる。	< R > 本文の内容を正しく読み取ることができる。	
7	単元のまとめ		< W > 自分や家族を紹介する英文を書くことができる。		< W > 比較表現の形、意味、用法を理解している。
8	単元テスト				< W > 比較表現の形、意味、用法を理解している。

印が、各時間ごとの重点評価事項

6 本時の指導

(1) 目標

[表現の能力]

絵を見て形容詞の比較級の表現を含む3文以上の英文を書くことができる。

(2) 指導の構想

本時は、本文の導入と形容詞の比較級の用法を扱う。

本文の導入は、最小限に絞り、教師のオーラルイントロダクションによる提示から本時の学習課題を引き出したい。

形容詞の比較級の用法については、絵を用いて「比較」を視覚的にとらえさせ、英語で対話しながらドリルし、言語活動を行って、その定着を図りたい。そして最終的には絵を見て、比較表現を含む3文以上のつながりのある英文を書くことを目標としたい。

(3) 本時の評価規準

評価規準	具体の評価規準		支援を要する生徒(C)への手だて
	A: 十分満足できる	B: おおむね満足できる	
[表現の能力] 絵を見て形容詞の比較級の表現を含む3文以上の英文を書くことができる。	絵を見て形容詞の比較級の表現を含む3文以上のつながりのある英文を書くことができる。	絵を見て形容詞の比較級の表現を含む3文以上の英文を書くことができる。	書けない語句はカタカナなどで表記させる等。

(4) 展開

段階	学習活動	教師の支援	支援を要する生徒への手だて	* 評価 留意点等
導入 10分	1 あいさつ 2 ウォームアップ 3 本文の導入 (1) 口頭導入 (2) TF 4 基本本文の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気よく挨拶させる。 ・ ペアでの会話練習により、英語学習へのムードを高めさせる。 ・ PCを用いながら本文の大まかな内容を口頭で導入する ・ TFで内容把握の確認をする。 ・ 本時の基本本文を提示し、口ならしの後、3つの観点で確認し、本時の学習課題(「-は...より~です」)に結びつける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> Kathy's school is older than Yuki's school. </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャシーの学校がどんなだといっているのか。 ・ 古さを比べていることが分かる1語は何か。 ・ 由紀の学校と比べていることが分かる1語は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート * 大まかな内容が聞き取れたか。(詳しい内容は次時扱い) * 本時の学習課題が確認されたか。 	
展開 38分	5 口頭ドリル (1) 全体 (2) 個人 6 言語活動 Who's who Game 7 書く活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵を見て、教師の英語の問いに対して応答を求め、その後全体で口ならしを行う。 T: (Showing picture)This is A.This is B. Which is older,A or B? S: A. A is. A is older. ... T: Please repeat. A is older than B. (B is younger than A.) ・ ペアになり、交代で廊下に掲示した5つの比較級の文を相手に伝えたり、相手から聞き取った英文を書かせる活動を行い、その情報を手がかりに絵の登場人物の名前をペアで考えさせる。 読めない語句は教え自信を持って伝えられるようにさせる。書けない語句はカタカナで表記させる。 ・ ゲーム終了後、5つの文を見ないで言えるよう練習させ、さらに絵を見ながらラインズゲーム形式でテンポよくQAし定着を図る。 ・ ワークシートの条件に従い、絵の中の兄弟姉妹を紹介する文を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 絵を見て、Which is -er,A or B?の問いに、A is -er than B.の全文が言えるか。 * 比較級の文を読んで、適切に伝えることができたか。 * 比較級の文を聞いて、適切に書くことができたか。 ・ ワークシート * 絵を見て形容詞の比較級の表現を含む英文を3文以上書くことができたか。 	
終末 2分	8 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習の理解と取り組みを振り返り、自己評価させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート 	